

## 事業所自己評価シート

## 職員による自己評価

## A「適切な支援の提供」について

プログラムは毎月、計画を立て幅広い内容を段階的に実施している。季節感や展開を考えバランス良く組み立てている。

実施後も職員間で振り返りを実施し、次回の課題の確認や展開などについて確認している。

## B「保護者への説明等」について

個別支援計画については定期的な面談や勉強会、親子日の中でお子さんの様子や支援内容、当日の取り組み方など密にやり取りをしている。情報伝達の手段として必要な情報はお知らせやマチコミを活用し提供した。

## C「関係機関との連携」について

夏季に関係機関の参観の機会を設けている。また、情報共有のためのカンファや、就学児には引き継ぎを実施している。

## D「非常時等の対応」について

マニュアル等については全体周知に加え、クラス単位でも補足説明を実施した。また、ケガや急病などの緊急時の対応についてもマニュアルを作成しシミュレーションを行なった。

## 保護者による評価

## A「適切な支援の提供」について

100%「はい」との回答を頂いています。

年間で作成している個別支援計画書に沿って個々のお子さんに合わせた課題設定を行なっている。また、月や季節ごとに計画を立て幅広くプログラムを行なっている。固定化しないよう気を付けている。

## B「保護者への説明等」について

保護者同士への連携への支援という設問に12.5%「いいえ」の回答を頂いている。医療型の対象児数が少ないため、利用頻度別に複数のクラス設定をすることが難しく、頻度混合のクラスになると親子日の設定に偏りが出ることになってしまった。

## C「非常時の対応」について

マニュアルに関しては周知されているという認識だが、定期的な訓練については12.5%「どちらともいえない」との回答を頂いている。訓練は毎月実施しているが、登園日が実施日にあたらない場合が生じることがある。

## D「満足度」について

全体を通しては、100%満足との回答を頂いている。

## 事業所内での分析

## 【共通点】

- 関係職種と利用児の目標や課題などを確認し、保護者と日々の療育時間や個別支援計画書で確認、共有する事で同じ方向での支援につながっている。プログラムなども展開や季節感なども考慮し固定化されないよう工夫している
- マニュアルを通じて保護者への説明・情報提供を行ない、緊急時の備えや訓練について周知徹底している。

## 【相違点】

- 親子日の組み方に工夫が足りなかったため、利用頻度が複数いるクラスの保護者同士への支援が足りなかった。
- 緊急時の対応に関して、応援職員の配置などの現実に近い設定の訓練が足りなかった。

## 分析・検討してみても…

### 事業所の強み

○多職種や他機関と連携を図り、ひとり一人のお子さんに適した支援を実施している。

多職種とカファルスや日々の振り返りを定期的に行い、多角的な視点を取り入れ日々の療育を実施している。日々の療育は児童発達支援管理責任者や関係スタッフが担任と連携し、お子さんの「わかる・楽しい・達成感」を意識したプログラムを提供している。

○保護者支援の充実に努めている。

お子さんの様子や支援内容、日常の困り事等を親子通園日、個別面談、電話相談、連絡ノート等で共有や相談を行っている。

○他機関との連携に努めている。

就学時の引継ぎ、他機関のサービスを併用するケースの情報共有を図るため、関係機関と連携している。医療ケアの必要なお子さんは医療主治医と緊急時の対応等の確認を行っている。

### 事業所の改善点

○保護者同士が情報交換できる機会の設定や情報発信の方法に工夫が必要とします。

クラスの保護者が集まる場を定期的に設け、情報交換が出来るような機会を設けます。

保護者への情報発信につとめ、「利用者ハンドブック」にわかりやすく記載する事と合わせて丁寧な説明を保護者連絡会等活用し実施します。また、マチコミや季節のたより等でタイムリーな情報提供に努めます。

○非常時の対応については、職員の研修を実施し利用者にも引き続き月1回の訓練の機会を設け、安全で安心した施設運営を行えるよう努めます。

○お子さんの「わかる・楽しい・達成感」を意識したプログラムの提供を行います。また、保護者の療育ニーズを的確に捉え、療育内容や方向性等をより丁寧な説明を行い、共有に努めます。

○引き続き、お子さんやご家族への支援の向上をめざし、研修等の充実に努めます。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今年度は、職員体制が不安定な時期もある中での通園運営となりました。利用されているご家庭にはご心配、ご迷惑をお掛けいたしました様々な面でご理解、ご協力を頂き本当に感謝しております。

今回の保護者アンケート調査や自己評価を行う中で、保護者支援や情報発信の点ではまだまだ改善の必要性を感じる場所がありました。また、私たちが行っている支援内容については、保護者の方と様々にやり取りをさせて頂く機会を持ちながらさらに満足度向上に向けて一緒に療育を進めていけたらと考えております。今後もお子さんおよびご家庭への支援の充実に努め、職員一同努力してまいります。

## 事業所自己評価シート

## 職員による自己評価

## A「適切な支援の提供」について

プログラムは幅広い内容を段階的に実施している。集団で行なうプログラムでも個別に課題設定したり、お子さんの変化に対応し内容を検討・実践している。行事などでは事前に準備することなどを保護者と確認し、一緒に対応を考えていけるよう支援している。親子日には実際に療育を体感していただくことや、懇談や面談の機会を通して課題や支援方法を共有している。

## B「保護者への説明等」について

日々の取り組みは、親子日やメモや療育中に伝えられなかったことは、電話での対応を通じて具体的に分かりやすく伝えるよう配慮している。情報伝達の手段としてはお知らせやマチコミ等も活用し提供した。

## C「関係機関との連携」について

今年度は、職員体制が整わず、関係機関へ出向くことが困難な体制になったが、夏季に併行先の機関の参観の機会を設けるだけでなく、電話等で併行先の機関とのやり取りを行なった。移行に向けた引き継ぎや医療機関との連携も行っている。

## D「非常時等の対応」について

年度初めにマニュアルを確認周知している。また月1回の避難訓練を実施しているが、実際に近い想定避難訓練にはなっていない。担任以外のセンター内の職員の動員も含めた訓練の実施回数は少なかった。急病・ケガ等の緊急時対応については関係スタッフでマニュアルの周知とシミュレーションを行なった。

## 保護者による評価

## A「適切な支援の提供」について

プログラムの固定化に対する工夫の点では、86.2%が「はい」と回答。お子さんにとって繰り返すことで「物事がスムーズになる」という意見を頂いている。引き続き繰り返して行っている「意味」を職員が説明をしていくだけでなく、お子さんの変化に対応しさまざまなプログラム展開をしていく必要がある。

## B「保護者への説明等」について

複数の項目に「どちらでもない」の意見を頂いている。療育場面の対応についての振り返りや分離の際のお子さんの様子など十分に説明しきれていない点があった。また、職員体制も整わず忙しそうで声を掛けにくかったという意見もあった。

## C「非常時の対応」について

感染症に対する対応については説明が出来ていたが、非常時の対応については、訓練場面だけでなく、日常の安全面についての配慮についてご意見を頂いた。限られた環境で、必要物品を収納する限界がある中で、通路などの安全確保は徹底している。

## D「満足度」について

91.4%「はい」と回答している。お子さんの体調などのコンディションに合わせ、課題を調整するなどの対応や、保護者が相談しやすい環境があるとの意見を頂いている。

## 事業所内での分析

## 【共通点】

- 関係職種と目標や課題などを確認し、保護者とも個別支援計画書等で確認、共有する事で同じ方向での支援につながっている。プログラムなども展開や季節感なども考慮し固定化されないよう工夫している
- マニュアルを通じて保護者への説明・情報提供を行ない、緊急時の備えや訓練について周知徹底している。

## 【相違点】

- 懇談機会の減少や送迎時のやり取りが不十分だったことで、保護者が聞き取りにくかったり相談できる機会が減ってしまった。
- 非常時や緊急時のマニュアルの周知はされているが、日々の環境設定・整理整頓等の安全面について、配慮が足りなかった。

## 分析・検討してみて…

### 事業所の強み

○多職種や他機関と連携を図り、ひとり一人のお子さんに適した支援を実施している。

多職種とカンファレンスや日々の振り返りを定期的に行い、多角的な視点を取り入れ日々の療育を実施している。日々の療育は児童発達支援管理責任者や関係スタッフが担任と連携し、お子さんの「わかる・楽しい・達成感」を意識したプログラムを提供している。

○保護者支援の充実に努めている。

お子さんの様子や支援内容、日常の困り事等を親子通園日、個別面談、電話相談、連絡ノート等で共有や相談を行っている。

○他機関との連携に努めている。

就学時の引継ぎ、併用している関係機関と参観や電話相談等で連携を図っている。

### 事業所の改善点

○療育プログラムについては引き続き内容や展開の仕方を検討し、お子さんの「わかる・楽しい・達成感」を意識したプログラムの提供と、季節感のある内容を意識した全体の行事を実施します。また、保護者の療育ニーズを的確に捉え、一人ひとりに合わせた支援内容や方向性等についてより丁寧な説明を行い、共有に努めます。

○親子日の療育場面での共有や懇談での振り返り、送迎時や単独日のやり取りなど、保護者のニーズに合わせた支援の充実に努めます。

○施設環境の改善に努めます。安全面には細心の注意を払っておりますが、部屋内に必要な備品を置く設定と環境が整わず、一部廊下の隅に設置している状況があります。所轄消防署より指摘を受けておりませんが、整理整頓を心がけ、安全に運営出来るよう努めます。

○引き続き、お子さんやご家族への支援の向上をめざし、研修等の充実など職員育成に努めます。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今年度は、職員体制が不安定な時期もある中での通園運営となりました。利用されているご家庭にはご心配、ご迷惑をお掛けいたしましたが多様な面でご理解、ご協力を頂き本当に感謝しております。

今回の保護者アンケート調査や自己評価を行う中で、保護者支援や情報発信の点ではまだまだ改善の必要性を感じるところがありました。また、私たちが行っている支援内容については、保護者の方と様々にやり取りをさせて頂く機会を持ちながらさらに満足度向上に向けて一緒に療育を進めていけたらと考えております。今後もお子さんおよびご家庭への支援の充実に努め、職員一同努力してまいります。

## 事業所自己評価シート

## 職員による自己評価

## A 「適切な支援の提供」について

療育後の振り返りと記録、開始前の打合せを毎回実施、定期的にカンファランス（検討会議）を実施し支援やプログラムの見直しを行っており、適切な支援の提供ができたと考えています。しかし、より適切な支援を提供するために、外部研修等の希望があり、技術研鑽が課題となっています。

## B 「保護者への説明等」について

日頃から丁寧な説明を心掛けており、定期的なおたよりの発行のほか、連絡票でのやりとり、個別に声をかけ、定例ではない個別面談や電話相談を実施したり、コロナ禍では実施できなかった6人全員でのクラス懇談/保護者教室を実施しており、できる限り改善に努めているとの意見が多く見られました。一方、その日の振り返りや伝達事項なども多く、保護者同士で話せる時間が十分に確保できていないと感じ今後の課題です。

## C 「関係機関との連携」について

幼稚園・保育所とは、療育参観の呼びかけ/受け入れ、直接訪問しての連携を行っており、学校とは引継ぎを積極的に実施するなど、日々利用される地域集団との連携を積極的に実施しています。一方で、急増している民間の児童発達支援や放課後等デイサービスとの連携が少ないことが課題です。

## D 「非常時等の対応」について

緊急時の対応の確認や避難訓練の定期的な実施のほか、ヒヤリハット事例の共有、虐待防止のための研修を実施するなど、様々なリスクを想定した訓練や研修を実施できていると考えています。

## 保護者による評価

## A 「適切な支援の提供」について

個別支援計画については「よく観察して計画につなげている」「支援計画にそって成長が感じられる」「信頼できる」とのご意見、活動プログラムについては、「活動の意図がわかりやすい」「常に新しい取り組みがなされている」と肯定的なご意見を多くいただきました。一部、「画一的」「個性を重視してほしい」とのご意見がありました。

## B 「保護者への説明等」について

多くの方に「いつも丁寧に説明されている」とのご記入いただきました。一方、「親の会の活動の支援や保護者会の開催等により、保護者同士の連携が支援されているか」の項目では“どちらともいえない”“いいえ”“わからない”を合わせて過半数を超えており、支援されていないと感じている方が多くいらっしゃいました。また、“まめに声をかけてもらえてよかった”困りごとに対し“電話でアドバイスいただけて助かりました”のご意見もあり、こちらからの働きかけがよかったと感じている方が複数いらっしゃったようでした。

## C 「非常時の対応」について

避難訓練など定期的実施しているものは、実感をもって受け止められていました。一方で、マニュアル等については、1割ほど“どちらともいえない”との回答がありました。感染症対策などは、おたよりに定期的に載せていますが、年度当初に説明したきりのものは、改めて説明する必要があるようでした。

## D 「満足度」について

「センターの支援に満足しているか」の質問には、殆どの方に満足とご回答いただきました。お一人、“もっと分離が多いとリフレッシュできる”のご意見がありましたが、ここ数年はコロナ禍で参観する機会が少なく“もっと療育の様子を見たかった”との声が数多く寄せられており、多くの方にとっては丁度よかったようでした。

## 事業所内での分析

## 【共通点】

・様々な点について、概ねご満足いただけていたように思います。

【相違点】・個別支援計画の内容について、画一的のご意見がありました。個性性を重視した支援や記載を心がけていたましたが、初期・中期と目標や支援方法に変化がない場合があったことも影響したかもしれません

・保護者同士の連携について、昨年度より参観や懇談の機会を増やし、交流に努めているつもりでしたが、保護者の方は十分ではないと感じられているようでした。おそらく、親の会がないことや、別曜日の利用者で交流する機会がないことなども理由の1つと思われました。

分析・検討してみても…

### 事業所の強み

#### ○一人ひとりのお子さんのアセスメントに基づいた支援を実施している。

- ・担任および児童発達支援管理責任者、心理職や作業療法士等の多職種と連携し、多面的なアセスメントを実施している。
- ・カンファランスや日々の振り返りを通じて、集団場面においても、お子さんに合わせた個別性の高いプログラムと支援方法を実施している。

#### ○保護者支援の実施方法について、工夫することができている。

- ・感染対策をとりつつも、参観日やクラス懇談日の定期的な実施、VTR 視聴や動画配信、zoom を利用した土曜日の保護者教室など、お子さんの様子や特性、対応方法についての共有ができる工夫をしている。

#### ○日々利用される幼稚園・保育所や学校との連携が定例となっている。

- ・療育参観週間を設けたり園に直接訪問するなどし、園で担当してくださる先生との連携し、支援の連続性を図っている。

### 事業所の改善点

#### ○引き続き、こどもが楽しめ、より成長につながるプログラムが実施できるよう、様々な工夫をしていきます。

#### ○保護者の方への丁寧な説明に努めます。

- ・個別支援計画では、期間を短期で達成できる具体的な目標と支援方法の記載に努めます。
- ・日々の懇談にとどまらず、保護者の交流につながるプログラムを実施します。

#### ○他の児童発達支援事業所との連携を模索します。

#### ○支援の向上をめざし、職員の育成に努めます。

- ・これまでの研修に加え、関係機関や他の児童発達支援事業所の見学研修など、職員の研修の充実を図ります。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

アンケート結果をもとに、職員間で振り返り、深めることができました。当たり前に行っていたことが当たり前でないことに気づくことができたり、事業所の強みについても改めて考えることができました。

また、全体で振り返ることで、主観でなく考えられたり、それぞれの経験を共有できたりできました。

これを機に、改善点を中心に仕組みづくりに反映していくようにしていきたいと思っております。

事業所名 横浜市戸塚地域療育センターピーす東戸塚

担当者 中村 泉